

### 「拒否の理由(3) —2つの誤解—」

#### 1. はじめに

##### (1) ロマ書9~10章の文脈

- ①イスラエル人は7つの特権を与えられているがメシアを拒否した(1~5節)。
- ②しかし、イスラエル人の一部しか救われていないのは、神の計画である。
- ③神は、権威をもって救われる人たちを選んでおられる。
- ④イスラエルの拒否の理由は、彼らの頑なさにある。

\*神の選びと人間の側の責任

- ⑤イスラエルの頑なさは、神の義についての無知から来ている。

##### (2) きょうの箇所

- ①ぼたんの掛け違え
- ②3つのぼたん
  - \*神の義
  - \*救いを受ける人
  - \*伝道の必要性

#### 2. アウトライン

- (1) 第1の誤解：救いを受ける人(12~13節)
- (2) 第2の誤解：宣教の必要性(14~21節)

#### 3. メッセージのゴール(適用)

- (1) 異邦人信者の役割
- (2) 神とイスラエルとの契約

このメッセージは、ユダヤ人の拒否の理由を学ぼうとするものである。

#### I. 第1の誤解：救いを受ける人(12~13節)

##### 1. ユダヤ人だけが救われるという誤解

- (1) 選民としてのプライドがあった。
  - ①ユダヤ人の7つの特権
  - ②律法が与えられているのは、ユダヤ人だけ。
  - ③割礼も同じ。

(2) 異邦人には律法も割礼も与えられていない。

①神はユダヤ人のみを救う。

(例話) 西壁でのユダヤ人との会話。異邦人にはイエス・キリストがいる。

## 2. 12 節

「ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです」

(1) この節の冒頭に、「ガー」(なぜなら、because) という接続詞が付いている。

①11 節の理由を説明している。

(2) 「ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません」

①ギリシア人とは、異邦人のこと。

②「区別」とは「差異」「違い」のこと。

③両者の差異は今も存在する。

④これは、「義認の方法に関しては」という意味である。

⑤パウロは、選民意識を持ったユダヤ人に対して、驚くべきことを語っている。

(3) 主のご性質からそう言える。

①主とはイエス・キリストのことである。

②イエス・キリストは、すべての人の主である。

③イエス・キリストは、信仰を告白するすべての人を恵みによって救われる。

## 3. 13 節

「『主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる』のです」

(1) この節の冒頭にも、「ガー」(なぜなら、because) という接続詞が付いている。

①12 節の理由を説明している。

②ヨエ 2:32 の引用

(2) 「主の御名を呼び求める」

①「主の御名」とは、ヘブル的には主ご自身のことである。

②「呼び求める」とは、「信仰により、救いを求めて祈る」ことである。

(3) ペテロはペンテコステメッセージ(使 2:21)で、ヨエ 2:32 を引用している。

①この預言をイエス・キリストに適用している。

②使徒たちは、旧約聖書を用いて伝道メッセージを語った。

## II. 第2の誤解：宣教の必要性 (14~21節)

1. 異邦人は救われないのだから、宣教の必要はないという誤解。

(1) 預言者ヨナの例

(2) 使 11:1~3

「さて、使徒たちやユダヤにいる兄弟たちは、異邦人たちも神のみことばを受け入れた、ということに耳にした。そこで、ペテロがエルサレムに上ったとき、割礼を受けた者たちは、彼を非難して、『あなたは割礼のない人々のところに行って、彼らといっしょに食事をした』と言った」

2. 14~15節

「しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおおりです。『良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとっぱでしょう』」

(1) 4つの修辭的質問が、鎖の輪のようにつながっている。

①質問ではなく、強調である。その通りということ。

(2) 4つの否定文として読む。

①「信じたことのない方を、呼び求めることはできない」

②「聞いたことのない方を、信じることはできない」

③「宣べ伝える人がいなくては、聞くことはできない」

④「遣わされなくては、宣べ伝えることができない」

(3) イザ 52:7

「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあつて、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、『あなたの神が王となる』とシオンに言う者の足は」

①バビロン捕囚からの解放を告げる使者がここでのテーマ

②この聖句を、福音の使者に適用している。

- ③「りっぱな足」、「美しい足」(口語訳)、「美しい足」(新共同訳)
- ④「足」は、その人物全体を指す。

(4) ユダヤ人たちを弁護する質問

- ①ユダヤ人たちは、福音を聞く機会がなかったのではないか。
- ②聞いていたとしても、理解ができなかったのではないか。
- ③これらの質問に対する回答が、16~21節に出てくる。

3. 16~17節

「しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。『主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか』とイザヤは言っています。そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです」

(1) 「すべての人が福音に従ったのではありません」

- ①信じた人は非常に少ないということの、婉曲的表現である。
- ②これは、ユダヤ人のことを言っている。

(2) イザ 53:1

「私たちの聞いたことを、だれが信じたか。【主】の御腕は、だれに現れたのか」

(3) 新約時代

①ヨハ 12:37~38

「イエスが彼らの目の前でこのように多くのしるしを行われたのに、彼らはイエスを信じなかった。それは、『主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。また主の御腕はだれに現されましたか』と言った預言者イザヤのことばが成就するためであった」

- ②パウロの時代も、信じたのは少数であった。

(4) 「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです」

- ①救いの方法の再確認
- ②聞くことが信仰の始まりである。信仰には、信じるための内容が必要である。
- ③「キリストについてのみことば」とは、福音のメッセージのことである。

4. 18節

「でも、こう尋ねましょう。『はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか』。むろん、そ

うではありません。『その声は全地に響き渡り、そのことばは地の果てまで届いた』

(1) ユダヤ人たちは、聞いていた。

①詩 19:4 の引用

\*一般啓示のこと

②詩 19:7~11

「【主】のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、【主】のあかしは確かで、わきまのない者を賢くする。【主】の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、【主】の仰せはきよくて、人の目を明るくする。【主】への恐れはきよく、とこしえまでも変わらない。【主】のさばきはまことであり、ことごとく正しい。それらは、金よりも、多くの純金よりも好ましい。蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い。また、それによって、あなたのしもべは戒めを受ける。それを守れば、報いは大きい」

\*特別啓示のこと

(2) パウロがこの手紙を書いた頃、離散の地のユダヤ人に福音が伝えられていた。

#### 5. 19~20 節

「でも、私はこう言いましょう。『はたしてイスラエルは知らなかったのでしょうか』。まず、モーセがこう言っています。『わたしは、民でない者のことで、あなたがたのねたみを起こさせ、無知な国民のことで、あなたがたを怒らせる』。またイザヤは大胆にこう言っています。『わたしは、わたしを求めない者に見いだされ、わたしをたずねない者に自分を現した』」

(1) イスラエルは、理解できたはずである。

(2) モーセが言っている。申 32:21

①「民でない者」、「無知な国民」とは、異邦人のこと。

②律法を持たない異邦人でも信じている。イスラエルに理解できないはずがない。

\*これは、大から小の議論である。

(3) イザヤが言っている。イザ 65:1

①イスラエルが心を頑なにしたので、神は異邦人にご自身を表された。

#### 6. 21 節

「またイスラエルについては、こう言っています。『不従順で反抗する民に対して、わたしは一日中、手を差し伸べた』」

(1) イザ 65:2 の引用

- ①神は、イスラエルを見捨てておられない。
- ②今も、イスラエルが立ち返るのを待っておられる。

## 結論

### 1. 異邦人信者の役割

(1) 伝道の必要性

- ①13節から15節の動詞を、逆に並べてみると、宣教の順序が分かる。
- ②遣わされる→宣べ伝える→聞く→信じる→呼び求める→救われる。
- ③神は、ご自分のしもべたちを通して人を救いに導く。
- ④ユダヤ人たちの場合は、聞く/信じる、の間に鎖が切れている。
- ⑤現代のユダヤ人たちは、遣わされる/宣べ伝える、の間に鎖が切れている。
- ⑥私たちの宣教は、どうなっているか。

(2) ユダヤ人伝道の必要性

- ①19節は、申 32:21 の引用であった。
- ②このテーマは、ロマ 11:11~14 で展開される。
- ③異邦人信者の役割は、ユダヤ人にねたみを起こさせることである。

### 2. 神とイスラエルとの契約

(1) 神がイスラエルを見捨てない理由は、アブラハム契約にある。

(2) これは、無条件契約である。

- ①イスラエルが失敗しても、破棄されない。
- ②片務契約である。
- ③何をしてもいいというものではない。神の矯正的裁きが下る。

(3) 新しい契約もまた、無条件契約である。

- ①一度救われた人は、救いを失うことはない。
- ②では、何をしてもいいのか。
- ③神の矯正的裁きが下る。